



平成 28 年 10 月 3 日

各位

会 社 名 アンジェス MG株式会社  
代 表 者 代表取締役社長 山田 英  
(コード番号 4563 東証マザーズ)  
問合せ先 経営戦略本部 執行役員 平崎 誠司  
電話番号 03-5730-2641

**NF-kB・STAT6 キメラデコイオリゴ核酸が  
「おおさか地域創造ファンド重点プロジェクト事業助成金」に採択**

当社の NF-kB・STAT6 キメラデコイオリゴ核酸の開発プロジェクトが「平成 28 年度おおさか地域創造ファンド重点プロジェクト事業助成金」に本日採択されましたのでお知らせいたします。

当社が開発する NF-kB・STAT6 キメラデコイオリゴ核酸(以下、キメラデコイ)は、STAT6 と NF-kB という炎症に関わる二つの重要な因子を同時に抑制する働きを持った核酸医薬です。

デコイ核酸医薬の開発は世界でもまだ稀ですが、当社では既に NF-kB をターゲットとした炎症性疾患治療薬 NF-kB デコイオリゴ核酸の臨床開発を行っています。キメラデコイは、この NF-kB デコイオリゴ核酸の次世代のデコイとして開発を進める方針であり、対象疾患の検討、製剤の開発、安全性試験などに着手しています。NF-kB 単独のデコイよりも高い効果を持つことが期待されます。

今回、助成の対象となった事業では、キメラデコイが標的の細胞に取り込まれやすくする技術の開発を対象とします。具体的には、キメラデコイに炎症部位標的リガンドを直接結合させたリガンド結合型デコイ核酸を設計し、この製剤の評価を行います。リガンドとは、医薬品の標的となる特定の受容体に特異的に結合する物質のことで、最適なリガンドを結合させることで、炎症部位の標的細胞にキメラデコイを導入する効率を高めることができます。これによって、少ない投与量で薬効を発揮するだけでなく、全身投与が可能となることも期待されます。また、リガンド結合型デコイ核酸は製造や品質の管理がしやすいため、製造コストの抑制にもつながる可能性があります。

「平成 28 年度おおさか地域創造ファンド重点プロジェクト事業助成金  
(医薬品・医療機器・iPS 細胞(再生医療・創薬等)事業化・成長促進支援プロジェクト)」  
助成対象事業の内容

事業の名称： 「炎症部位標的リガンド結合型 NF- $\kappa$ B・STAT6 キメラデオキシ核酸の設計と機能評価」  
助成期間： 平成 28 年 10 月～平成 29 年 12 月  
助成予定額： 約 500 万円

なお、本件により、上記の助成期間終了後に営業外収入が見込まれますが、平成 28 年 12 月期連結業績への影響はありません。

#### 〈ご参考〉

##### － 用語の解説 －

#### 1. NF- $\kappa$ B (nuclear factor-kappa B)

遺伝子は、生体の恒常性を維持する上で重要な働きを担っていますが、ほとんどの遺伝子は普段発現しておらず、必要な時に必要な遺伝子が発現できるように発現の制御を司っている蛋白質が転写因子です。NF- $\kappa$ B は、炎症や免疫が活性化する時、活性酸素などによる酸化ストレスなどの刺激が外部から与えられた時に、細胞が炎症反応や免疫反応を惹起させるため活性化する主要な転写因子です。実際に、NF- $\kappa$ B の過剰な活性化は、アトピー性皮膚炎、乾癬、関節リウマチなど異常な炎症や免疫関連の疾患を引き起こし、病態を悪化させることが指摘されています。

#### 2. STAT6 (signal transducer and activator of transcription 6)

上記、NF- $\kappa$ B と同様に STAT6 は遺伝子の発現の制御を担う転写因子です。STAT6 は特に免疫応答シグナルにおいて重要な役割を果たしており、STAT6 の過剰な活性化は IL-4, IL-13 などのサイトカインにより引き起こされ、アトピー性皮膚炎や喘息などのアレルギー・免疫関連の疾患を悪化させることが指摘されています。実際、IL-4, IL-13 を分子標的とした抗体医薬が開発されており、STAT6 の重要性が示唆されています。

以上